

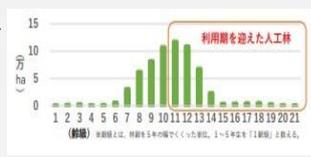
# 各種調査等の取組

上川中部森林管理署 中嶋 佑輔、大和田 真帆  
大谷 数久

## 取組の背景

現  
状

- (1) 道内人工林の5割が本格的な利用期の到来。
- (2) 林業従事者の高齢化、造林従事者の減少。  
⇒主伐・再造林の確実な実施。
- (3) 外国産広葉樹丸太の輸入が困難。  
⇒海外情勢の影響を受けにくく、品質が優れた道産広葉樹の安定供給が必要。



課  
題

- (1) 造林従事者の確保。  
⇒特に重労働の下刈作業の軽労化、省力化。
- (2) 天然林を対象とした広葉樹生産は困難な状況。  
⇒人工林の整備に伴う広葉樹材の供給、天然力を活用した次世代資源の造成（育成）及び保持。

## 取組の内容

### 【1】下刈作業の軽労化・省力化

実  
施  
内  
容

- (1) 造林請負事業（下刈）の一部で**特殊草刈機（リモコン式草刈機）**を使用する仕様で発注。  
【R6・R7年\_旭川及び上川地区】  
⇒R6年に管内事業者・市町村等を対象とした**現地見学会**を開催。
- (2) 所要の箇所以外はすべて1回刈で実施。
- (3) 植栽木の周囲及び地際からの刈払は原則抑制。

**機械 RJ703神刈**  
(長さ1515×幅1100×高さ785mm)  
・リモコンで遠隔操作  
・ハイエース・軽トラで運搬可能  
・安価(約400万円)  
・燃料:ガソリン(容量11L)



神刈による下刈作業の様子

### 【2】広葉樹資源の育成・生物多様性の保全

実  
施  
内  
容

- (1) 「**表土戻し地拵**」を造林請負事業で実施。  
【R6年\_美瑛地区】  
⇒カンバ類等の天然更新状況を調査。  
【北海道大学雨龍研究林と連携】  
⇒カラマツ植栽（700本/ha）と組み合わせ、多様な森林に誘導。
- (2) 天然広葉樹を保持する「**保持林業**」を生産請負事業で試験的に実施。  
【R6年\_旭川地区】  
⇒誘導伐（主伐）箇所、ナラ、シナ、カエデ等の高木性広葉樹を1ha当たり10~30本を存置。  
⇒広葉樹資源の育成、生物多様性の保全に配慮した施業を実施。



表土戻し地拵箇所を上空より撮影



広葉樹存置状況



保持林業を実施した主伐箇所を上空より撮影

### 【3】多様なモデル林の試験調査・運用

実  
施  
内  
容

- (1) **多様な下刈方法**：坪刈、隔苗刈、片側刈、高足刈、隔年刈【旭川地区】  
⇒植栽木の成長量調査を令和3年度から実施。
- (2) **多様な植栽密度**：500本、1000本、1500本/ha等【上川地区】  
⇒植栽木の成長量調査を令和2年度から実施。



成長量調査の様子

## 今後の展開

- 【1】特殊草刈機導入を推進 ⇒ 省力化に向け地拵・下刈仕様を検討。
- 【2】「表土戻し地拵」：雨龍研究林と協力し天然更新等調査、事業適地の検討と本事業の推進。  
「保持林業」：主伐箇所での導入を推進。
- 【3】モデル林の継続調査・とりまとめ ⇒ 施業の効果を検証。  
⇒管内市町村や森林組合、振興局林務課・森林室等の関係機関に情報発信（共有）